

有田中央高等学校清水分校

実施日時	①令和2年 9月 3日(木) ②令和2年11月 5日(木) ③令和2年11月 5日(木)
参加者	生徒7名、教職員9名 計16名
実施内容	①防災スクール「土砂災害に関する防災学習」 ②「世界津波の日」地震避難訓練 ③応急処置講習

ねらい

- ① 近年、梅雨期や台風シーズンを中心とした豪雨に伴って頻繁に土砂災害が発生している。清水周辺は山地であり、身近に起こりえる災害であるため、土砂災害について正しい知識、備えを身につける。
- ② 地震発生時にそれぞれの場面に応じた身の安全を確保する行動をとるなど、適切な対応行動を身につけるとともに、日頃から地震に対する防災意識を高める。
- ③ 全生徒、全教職員の共通理解と協力のもと応急処置、救急体制の習熟に努め、事故防止や安全能力の育成を図る。

主なプログラム

① 防災スクール「土砂災害に関する防災学習」

土砂災害に関するスライド動画による研修、紀伊半島大水害体験紙芝居



② 「世界津波の日」地震避難訓練

シェイクアウト訓練、避難誘導、救護体制の訓練、「世界津波の日」「稲村の火」に関する講話



③ 応急処置講習

応急手当の必要性、応急処置法実技指導



概要

① 防災スクール「土砂災害に関する防災学習」

県土砂災害啓発センター職員による、スライド動画による研修。

- ・ 学校周辺の地形を知る。
- ・ 土砂災害とは？（土砂災害の形態など）
- ・ 学校管内で発生した土砂災害
- ・ 土砂災害から身を守るための方法

紀伊半島大水害体験紙芝居では、実際に水害を体験した方から大水害の恐怖や被災しないためにはどのような行動を取るべきかを学習した。

② 「世界津波の日」地震避難訓練

地震発生時の身を守る行動、避難経路の確認をおこなった。「世界津波の日」「稲村の火」の由来について確認した。

③ 応急処置講習会

事故・災害が発生したとき、冷静かつ沈着にしかも正しい応急手当をすることによって、生命を守り、痛みをやわらげ、症状の重篤化を防止することができることを学んだ。

参加者感想文

- ・ 早めの避難をし、後悔しないようにしたい。土砂崩れの動画をあらためて見るのがないので恐怖を感じました。
- ・ 土砂崩れは避難する時間がないので、早めの行動が必要になってくるとあらためて思いました。紙芝居は、実際に起こったこととは信じられませんでした。家に帰って家族全員で話したいと思っています。
- ・ 普段何気なく過ごしている家族との日常が、一瞬で消えてしまう怖さと悲しさに気づくことができました。家族や近隣の人との仲を深めていくことが大切だと思いました。家にある防災道具の確認をしたいと思っています。

成果と課題

【成果】 学校がある清水地区は、山間部に位置し、土砂災害は、身近に起こりえる災害である。そのため生徒たちは、自分のことのように考えることができたと思う。紀伊半島大水害の紙芝居についても、実際に被災された方の話であるので、ダイレクトに心に突刺さる内容であった。体験談であるため、生々しく恐怖感を覚える場面もあったが、被災しないためには何をすれば良いのか、どのような備えが必要なのか考える良い機会となった。

応急処置講習会では、総合病院等の医療施設までの距離が遠いという地域の課題を意識して、初期の対応が重要であることを再認識した。

地震・避難訓練では、地震の恐怖、予防・対策、家族会議の必要性を感じたという感想が多く書かれていたことから、身をもって体験できたと思う。

【課題】 山間部のため津波は想定外であるが、土砂崩れや路面崩壊による交通の遮断や、電柱や電線の損壊による停電の被害は十分予想される。過去には、大きな台風の影響で、有田川町の山間部で停電が長期間続き、分校の生徒の中には10日以上停電状態だった者もいた。学校のある地域は比較的早く復旧したのでよかったが、電話・インターネットはもちろん、携帯電話も不通になり、ほぼ1日は生徒や有田中央本校との連絡もできなかった。災害後の状況に対応できる体制づくりが必要である。